

2025 年度入学式 学長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

春の訪れを感じる季節となりました。この佳き日に、滋賀県立大学並びに大学院の令和七年度入学式を挙行し、学部生六二〇名、編入生八名、大学院生一二四名、計七五二名の新入生を迎えられることを、本学として心から喜ばしく思います。三日月滋賀県知事をはじめとするご来賓の皆さま、そして本学の教職員と共に、皆さんの門出を心より祝福いたします。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆さまにも、深く感謝を申し上げます。

さて、大学とは、多くの人々の人生が交差する場だと私は考えています。皆さんはこれから、同級生や先輩、後輩、そして教職員との新たな出会いを重ね、多様な価値観や知識に触れていくことでしょう。そして、四年後あるいは二年後には、それぞれの夢や目標に向かって新たな道を歩み始めます。大学での出会いは、時に一生の友や恩師との縁（えにし）となり、時に自分自身を大きく変えるきっかけにもなります。限られた大学生活の中での出会いを大切にし、それが人生の宝となるよう、充実した日々を過ごしてください。

その「宝探し」を支援するために、本学は多彩な学びの場を用意しています。まず、本学は小規模ながらも、四学部十三学科、四研究科九専攻を擁する総合大学です。他学部や大学院の学生とともに多様な分野を学ぶことができる環境が整っています。また、課外活動に熱中しながら、新たな考え方や価値観に触れることもできるでしょう。そうした経験を通じて、貴重な友人関係を築き、自らの視野を広げてください。

本学は少人数による実践的な学びにも力を入れています。フィールドワーク、実習、実験などの活動を通じて、理論だけでなく、実践を通じた深い理解を得ることができます。本学の教員は、皆さん一人ひとりに寄り添い、個別指導のような役割を果たします。この恵まれた環境を活かし、自らの興味や関心を深めながら、実践的な学びを通じて成長していきましょう。手や足を使い、五感で感じることを大切にしながら、皆さんが新たな高みへと進んでいくことを期待しています。

さらに、本学では、「近江楽座」をはじめとするプログラムを通じて、大学を飛び出し、地域に入り、地域の人々とともに学ぶことを大切にしています。地域の課題を発見し、その解決に取り組む学生グループも多くあります。ぜひ、関心のある活動に参加してみてください。地域の人々との出会いや、現場での学びを通じて、大学の中だけでは得られない新たな発見があるはずです。

本学のモットーは「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」です。広大な琵琶湖と湖を取り巻く環境そのものが学びの場であり、そこで暮らす人々こそが最大の教科書であるという本学の教育理念を表しています。また、本学は「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」ことを重視し、地域とともに成長する人材の育成を目指しています。

これからの大学生活を通じて、皆さんには、“地”に足のついた専門性を身につけるとともに、社会を支える根幹である“思いやりの心”を育んでほしいと願っています。学びとは、単なる知識の習得ではなく、他者との関わりを通じて、より深い理解と共感を得るプロセスでもあります。本学での学び、そして地域社会での活動を通じて、皆さんが多くのことを吸収し、自ら成長し、社会に貢献できる人材へと成長することを期待しています。

本学という学び舎（や）における皆さんの出会いが、豊かな実りをもたらすことを心より祈念し、私の式辞といたします。

令和七年四月四日

滋賀県立大学 学長 井手 慎司